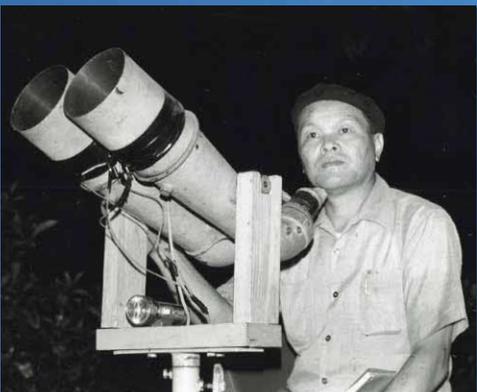
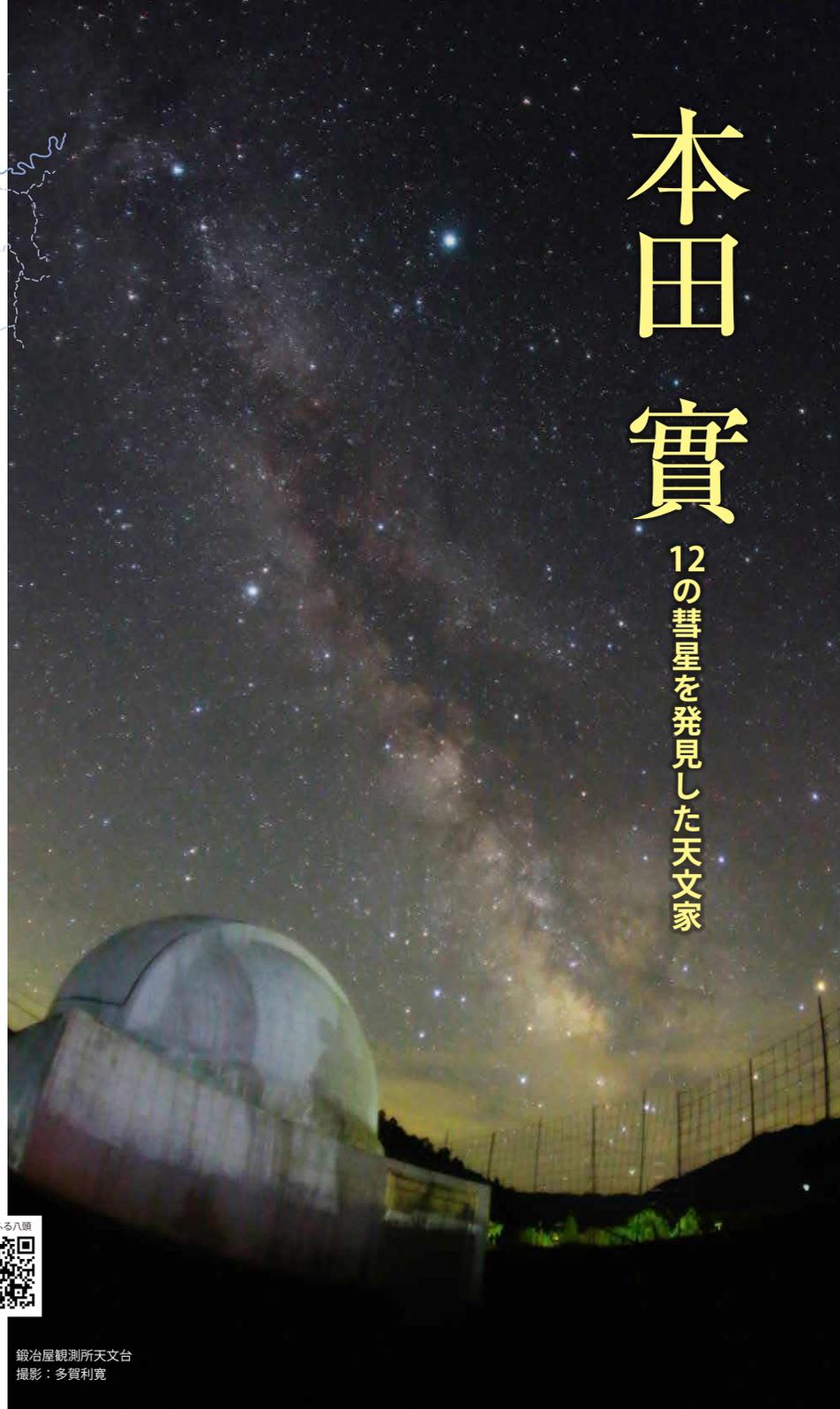


# 本田實

12の彗星を発見した天文家



誰にも知られずに、  
通り過ぎていく星が  
あるのはかわいそう。  
誰かに先を越されてもいい。  
誰かが見つけられればいい。

## 本田 實

天文家／八頭町名誉町民  
1913～1990



アクセス 自家用車／大阪から約2時間30分  
中国自動車道→佐用JCT→鳥取自動車道  
(無料)→河原IC→かわはら八頭フルーツ  
ライン→国道29号を姫路、若桜方面へ  
自家用車／出雲から約2時間30分  
山陰道(一部有料)→鳥取自動車道(無料)  
→河原IC→かわはら八頭フルーツライン  
→国道29号を姫路、若桜方面へ  
列車／大阪から約2時間30分  
山陽新幹線→姫路駅→智頭急行スーパー  
はくと→郡家駅→タクシー



開館時間 10:00～16:00  
開館日 毎週木、金、土、日、祝日  
(ただし、12/29-1/3は休館)  
入館料 無料  
駐車場 普通車 63台、身障者用駐車場 2台  
軽自動車専用駐車場 7台  
バス専用駐車場あり

## 本田實 記念館

〒680-0521 鳥取県八頭郡八頭町安井宿1346  
八頭町芸術文化交流プラザ あーとふる八頭 3階  
電話 0858-71-1016 / FAX 0858-84-6006  
Eメール: artfultyazu@town.yazu.tottori.jp

あーとふる八頭



鍛冶屋観測所天文台  
撮影：多賀利寛



(1966年、写真・監物邦男)

本田實自身によって撮影された天体写真。右、オリオン座。左、ベネッセ彗星と倉敷天文台ドーム



(1970年、写真・本田實)



(年代不明、写真・本田實)

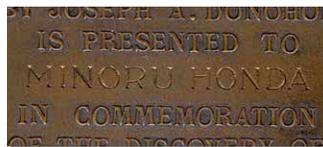


ドノホームダル (表)

ドノホームダル (裏)

アメリカの太平洋天文学会が新彗星の発見者に贈った発見賞「ドノホームダル」。本田實は生涯4回授与された、これはそのうちの最初の1つ

ドノホームダルの裏に「MINORU HONDA」の刻印がある。近年、生家の金庫の中から見つかった



現在、本田實記念館となっている旧安部小学校の理科室の天井には直径3mのプラネタリウム用ドームが仕込まれている



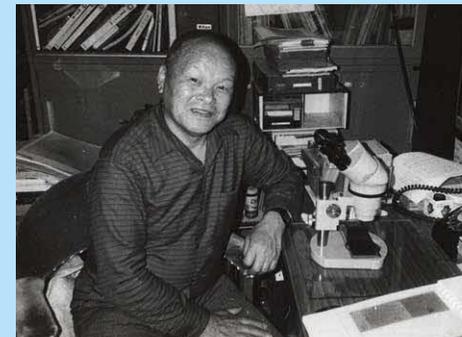
倉敷天文台時代に使っていた観測用ノート『観測野帳』



愛用のカメラレンズ



本田實の母校、旧八東小学校に保管されていた天体望遠鏡。購入にあたり本田實によりアドバイスを受けていたと伝わる。このほか、本田實が実際に使っていた彗星観測用の望遠鏡も展示している



倉敷で (1982年、写真・関勉)

**本** 田實は大正2年、八頭町(旧八東村)で生まれました。少年時代から星に興味をもち、生涯に12個の新彗星、11個の新星を発見。当時の新彗星発見では現役世界最多記録を樹立し、「天体発見王」とも呼ばれた世界的アマチュア天文家です。

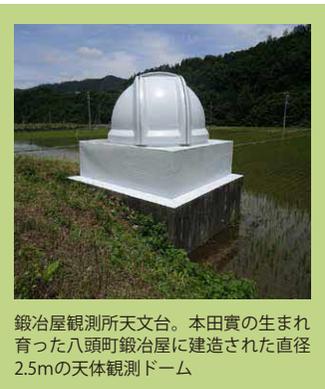
「誰にも知られずに、通り過ぎていく星があるのかわいそう。発見は、誰かに先を越されてもいい。誰かが見つければいい」

そう語っていた本田實。満月の夜と雨の日を除いて休むことなく観測を続け、77歳で亡くなるまでの生涯を、天体観測に捧げました。

- |             |                                      |
|-------------|--------------------------------------|
| 1913 (大正2)  | 2月26日、八頭郡八頭町(旧八東村)に生まれる              |
| 1940 (昭和15) | 少年時代から星に興味をもち、自作の望遠鏡で天体観測をする         |
| 1941 (昭和16) | 10月4日、初めての彗星「岡林・本田彗星」(1940 III)を発見   |
|             | 全国初の民間天文台である倉敷天文台(岡山県倉敷市)に着任         |
|             | 8月1日、兵隊として中国東北部、シンガポール作戦などに従軍        |
| 1942 (昭和17) | 戦地でグリグ・スキュレルブ周期彗星を発見                 |
| 1946 (昭和21) | 復員                                   |
| 1947 (昭和22) | 新彗星「本田彗星」(1947 X)を発見                 |
| 1948 (昭和23) | 第1回倉敷市文化賞受賞                          |
| 1949 (昭和24) | 第1回岡山県文化賞、第6回中国文化賞を受賞                |
| 1952 (昭和27) | 「財団法人倉敷天文台」主事に着任                     |
| 1963 (昭和38) | 紫綬褒章受章                               |
| 1968 (昭和43) | 12個目の新彗星「本田彗星」(1968 IX)を発見。現役で最多(当時) |
| 1970 (昭和45) | 初めての新星「へび座新星」(FH Ser)を発見             |
| 1975 (昭和50) | 「はくちょう座新星」(V1500 Cyg)を肉眼で発見          |
| 1976 (昭和51) | 日本天文学会神田茂記念賞受賞                       |
| 1981 (昭和56) | 私費で観測所を岡山県賀陽町(現 吉備中央町)に建設            |
|             | のちに「星尋山荘(せいじんさんそう)」と命名               |
| 1982 (昭和57) | 「わし座新星」(V1370 Aql)を発見                |
|             | 「いて座新星」(V4077 Sgr)を発見                |
| 1983 (昭和58) | 三本記念賞受賞                              |
| 1984 (昭和59) | 吉川英治文化賞受賞                            |
| 1986 (昭和61) | 八東町名誉町民                              |
| 1987 (昭和62) | フランス天文学会百周年記念賞、星の手帖社「チロ賞」を受賞         |
| 1990 (平成2)  | 11個目の新星「ヘルクス座新星」(V827 Her)を発見        |
| 2017 (平成29) | 8月26日、倉敷天文台内で永眠(77歳)。倉敷市名誉市民         |
| 2022 (令和4)  | 8月、鳥取県内の有志により「本田實顕彰会」が設立             |
|             | 11月3日、八頭町芸術文化交流プラザ あーとふる八頭3階に        |
|             | 本田實記念館開館 *彗星の符号は旧仮符号を使用              |



現在の「くらしき天文台」。昭和27(1952)年、新たに建造された天文台を「原澄治・本田實記念館」として公開。本田實が愛用した観測器や星の写真の撮影フィルム、図書を展示する



鍛冶屋観測所天文台。本田實の生まれ育った八頭町鍛冶屋に建造された直径2.5mの天体観測ドーム